

《令和3年7月》

P2 提案時の実施場所について

「稲築公民館」⇒「白馬ホール」に変更

地方創生インターン

ツ レ テ ク

TURE-TECHの実施について



令和3年6月

人事秘書課

1 TURE-TECH（ツレテク）の概要

ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」という）が実施する地方創生インターン事業。次の世代を作る「変革リーダー」を目指す学生のための地方創生インターンシップ・プログラム。

- ・ 8 月～9 月の連続する 1 ～ 4 日間、2,000 名を超す学生応募の中から選考された約 30 名の学生が自治体に滞在し、フィールドワークを中心に地域課題解決策をまとめ、首長に直接提案するもの

※2016 年より実施。昨年度は東松島市（宮城県。R3.5.1 人口 39,421 人）で実施。学生応募数は 3,216 人。

- ・実施主体はソフトバンク。自治体は地域課題の解決に向けた学生のサポートや研修場所の確保などの役割を担う。
- ・宿泊等滞在費はソフトバンクが負担

※事業に関して自治体がソフトバンクに支払う金銭的な負担なし

2 本市での事業実施に伴い期待される効果

- ・ 交流人口の拡大（学生やソフトバンク社員等約 50 人が嘉麻市で 1 泊～4 泊）
- ・ 優秀な学生からの地域課題解決の提案
- ・ インターンシップに携わる職員の人材育成
- ・ 話題性の確保

3 事業実施推進体制について

名称：嘉麻市へ Ture-Tech 委員会！（かましへつれてくいいんかい）

統括リーダー	小林地域活性推進課長	
副リーダー	原田人事秘書課参事 （地域課題担当）	中島産業振興課長補佐 （おもてなし担当）
メンバー （サテライトオフィス 関係者）	平川人事秘書課長 松隈地域活性推進課長補佐 山口地域活性推進課係長	篠崎産業振興課長 穴見産業振興課係長 児玉企画財政課主任主事

※令和 3 年 5 月に組織の一部を変更済

4 実施に向けた誘致活動の経過について

・誘致活動経過

R2.4	令和3年度の事業実施誘致の決定 誘致の組織体制の決定
R2.6	事業実施推進体制の名称を決定 事業の推進について職員へ周知
R2.7	地域課題募集（原則1係1提案）
R2.8	地域課題募集〆切（応募数50課題）
R2.9	地域課題1次選考（13課題が2次選考へ） 地域課題2次選考（最終合格13課題）
R2.10	ソフトバンクに次年度の事業実施候補地への意思表示
R3.4	本年度 嘉麻市での開催決定

5 実施及びスケジュールについて

①実施日：令和3年9月12日（日）～18日（土）

- ・嘉麻市現地での活動は上記のうち0～4日間（実施1週間前に決定）
 - ・新型コロナウイルス感染症に配慮し実施（延期・中止無し）
- ※オンラインでの実施になる可能性あり

②実施場所等：本庁の会議室5室（貸し切り）。

- ・宿泊場所は、カホアルペとし、現地活動期間は借り上げる。
- ・市長提案時の会場は、稲築公民館ホールを想定。

③実施協力職員

- ・嘉麻市へTure-Tech委員会！
- ・地域課題提案課及び地域課題に関係する職員

※地域課題…職員より50案応募あり。市職員による1次・2次（最終）選考で13案を選考した。TURE-TECHでの実施は5課題となるため、選考得点上位5案で実施。

《令和3年7月》
P2 実施場所について
「稲築公民館」⇒「白馬ホール」に変更

6 参考（地域課題等）

T U R E - T E C H 地域課題一覧

No.	地域課題（テーマ）	嘉麻市担当部署
1	嘉麻市の産品等を活用し、嘉麻市の PR につながる新しい商品の開発	産業振興課 観光 PR 係
2	「文化財の保存と活用」の嘉麻市モデルの創出	生涯学習課 文化財係
3	嘉麻市ブランディング戦略構築及び特産品開発	地域活性推進課
4	関係人口の創出施策	産業振興課 企業誘致係
5	ふるさと納税額の伸び悩みについて	企画財政課 企画調整係

課題No.	1
所属課	産業振興課 観光 PR 係
テーマ	嘉麻市の産品等を活用し、嘉麻市の PR につながる新しい商品の開発
テーマを選んだ理由	嘉麻市には豊かな自然に恵まれており、多くの産品が存在する。米、野菜はもとより、「日本酒」、「果物」、「肉牛」、「特別牛乳」など市内外でも知名度が高い産品も存在している。嘉麻市では以前より、市民で WG を構成し、嘉麻市の PR につながるような商品の開発に着手してきた。その結果として、ジビエを活用した「嘉麻のハム」、嘉麻市の素材とシャレを活用した「嘉麻の釜めしの素」、市内 3 酒蔵の銘柄を活用した「酒ゼリー」などを順に商品化してきた。しかしながら、「酒ゼリー」の商品化以後、研究開発を WG で検討してきたが、いずれも商品化には至っていない。嘉麻市の PR に繋がり、話題喚起にも繋がる新たな商品の開発が現状停滞している。
上記の具体的な課題	・「嘉麻の釜飯の素」を超える商品が生まれていない。 月平均 588 個の販売（H24.10 月～R2.3 月までの数値） ・嘉麻市の観光消費額単価（観光客等の来訪時 1 人当たりの消費額）の増加させたい。 ・嘉麻市職員の PR 力向上につながるような商品が開発できていない。 （e.g.説明コストを減らせる。全員 PR ができる。職員でシェアできる。）
目標（ゴール）	・市内の観光消費額 1.5 倍に貢献し、説明コストを減らし、「嘉麻の釜飯の素」（月平均売上額 513,912 円）を超えるヒット商品を開発する。 目標：5 年間の月平均売上額 771,000 円（513,912 円の 1.5 倍）
自由記述	

課題No.	2
所属課	生涯学習課 文化財係
テーマ	「文化財の保存と活用」の嘉麻市モデルの創出
テーマを選んだ理由	地域社会の過疎化や少子高齢化など社会状況の変化により、日本各地に残る貴重な文化財の消失・散逸等の防止が緊急の課題となっています。こうした中、文化財継承の担い手を確保し、地域社会総がかりで文化財の保存と活用に取り組んでいくために、平成 31 年 4 月に改正文化財保護法が施行され、地域における文化財の保存活用の計画策定が推奨されることとなりました。上記にみられる課題は本市においても例外ではなく、伝統芸能の担い手の高齢化が進み、各地で継承者不足が深刻化したり、筑豊を代表する重要な町家が次々に消失したりと、急速な社会状況の変化で本市の文化財を取りまく環境は年々厳しくなっています。こうした課題に対応するために、本市においても文化財の保存活用のためのマスタープランを早急に策定する必要性を感じていますが、本市のように財政基盤が脆弱な自治体では、文化財の保護に対して積極的に予算や人力を投入する余裕はなく、コンサルタント業者一任のマスタープランを作成してもその実現性は乏しいものと思われます。そこで、学生の皆さんと議論を重ねながら、実現性の高いマスタープランを作成したいと思い、本テーマを選定しました。
上記の具体的な課題	マスタープランとは、市の行政体系に位置付ける法定計画であり、例えば、個別の文化財や特定地域の課題等を整理し、具体的な対応策や構想等を記載した事業実施のための青写真を示すものです。マスタープランの策定にあたり、その一部を学生の皆さんに担っていただきたいと考えています。 時間的制約がある中で、①特定地域の文化財全般を対象にした内容と②特定の文化財を対象にした内容とどちらが取り組みやすいのか、こちらも決めかねているところがありますので、ひとまず①と②を併記して示すことにします。 ①文化財が集中する地域が市内に複数存在するが、いずれも少子高齢化で文化財の維持管理が困難になっている。また、観光やまちづくりに活かすためのストーリーも不十分で未整備の文化財も多い。 ②- 1 市内には古民家や評価の高い町家が点在しているが、後継者不在で消滅の危機に直面している物件が多い。また、大半は指定文化財ではないので、法的保護措置の対象とならない。 ②- 2 福岡県指定史跡である「鎌田原遺跡」は、現在、案内板等もなく全く活用ができていない。また、出土品も適切な展示施設がないため、九州国立博物館に預けている。しかし予算をかけて史跡整備等を行うことも難しい。
目標（ゴール）	①当該地域に残る歴史や文化財を再評価し、その地域にふさわしいストーリーを策定する。また、地域の実状に見合った形で地域内の文化財の活用方針を策定する（複数の地域を対象とするのか、一地域に絞るのかも協議が必要と思われる。また、対象とする地域によって難易度は変わる。）。 ②- 1 古民家・町家の後継者不足を解消するための方策および古民家・町家を活かし、観光資源や地域づくりにつなげるための方策を策定する。 ②- 2 認知度の低い「鎌田原遺跡」とその出土品の保存と活用の方針を策定する。 ※難易度が高い（もしくは作業量が多い）順から ②-1 ⇒ ① ⇒ ②-2 となるものと思われます。三択で検討していただくと助かります。
自由記述	文化財行政に専門職として二十数年携わっている中で、ここ数年、地域の歴史や文化財等に関する相談や依頼が急速に増えてきました。これまで「文化財に興味・関心のある人」は一部の「歴史好きな人」に限られていましたが、近年は「歴史好き」ではなくても、自分の住んでいる地域の歴史には関心がある人、まちおこしに文化財を活かしたいと考えている人、「文化財＝貴重」という従来の価値観ではなく、「文化財＝お洒落、かわいい」といった新たな価値観で興味を示す人など、文化財に関心をもつ人々の多様化が進んでいると実感しています。これからの文化財保護のあり方も、行政が積極的にこ入れすべきもの、地域でゆるやかに守っていくものなど柔軟な対応が必要だと思います。また、これまで行政が中心に担ってきた文化財の保護から活用までをどうすれば民間がビジネスとして担えるのかなどの新たな視点や発想の転換も必要だと思います。外部の視点と柔軟な思考で市内各地に残る歴史や文化財を再評価していただき、その保存と活用に対する斬新な提言を期待します。

課題No.	3
所属課	地域活性推進課
テーマ	嘉麻市ブランディング戦略構築及び特産品開発
テーマを選んだ理由	嘉麻市の最重要政策課題は、人口減少問題。 嘉麻市の移住・定住の取り組みに関しては、現状、住まいる応援交付金等の金銭補助による定住インセンティブを図っているが、根本的な「いきたい 住みたい つながりたい」と思われるまちづくりには繋がっていない。このことについて重要な事は、嘉麻市に行けば〇〇がある、嘉麻市に住むとこんないいことがある、嘉麻市のイベントを手伝いたい等、地域の魅力と特色につながるブランディングが重要である。このため嘉麻市のブランディング戦略構築と特産品開発についてテーマとして提案するものである。
上記の具体的な課題	認知度不足。嘉麻市を定住地、観光地の目的として行動する人は少ないと思われる。嘉麻市に●●を食べに行こう、▲▲を見に行こうというもののづくりや再発見とPRが必要である。 【知られてない嘉麻市の強み】 ・豊かな自然 ・遠賀川源流のまち ・嘉穂アルプスによる美しい山々 ・九州最南端のリンゴのとれるまち ・おいしい食べ物、飲み物（米、肉牛、日本酒等）
目標（ゴール）	次のキャッチコピー作成と実現までの行程整理 ・嘉麻市に●●を食べに行こう！ ・嘉麻市に▲▲を見に行こう！
自由記述	自分たちでは気づかない（、気づけないのかも、、、）、嘉麻市の魅力発信につながる、良いもの、特色、売れるもの等について検討整理し教えてほしい。 （例示） ・メロンといえば夕張 ・桃といえば岡山 ・牛といえば松坂 ・山笠といえば博多、どんたくといえば博多 ・宿泊するなら星野リゾート ・温泉なら湯布院 ・暑いといえば熊谷市 等々

課題No.	4
所属課	産業振興課 企業誘致係
テーマ	関係人口の創出施策
テーマを選んだ理由	嘉麻市では、人口減少や高齢化が進み、地域における担い手は常に不足している状態です。移住をしてくれる人が沢山増えればいいのですが、「来たこともない、住んだこともない、知り合いもいないといった場所」には、すぐに移住を決断してもらうには厳しい現状があるといえます。 そこで、すぐさま移住ではなく、お試しで気軽に来れる制度があれば、嘉麻市を知ってもらう機会が増え、嘉麻市に愛着を持ってもらう人を増やすことができるのではないかと考えました。 二拠点生活（デュアルケーション）が流行りつつあると聞きましたので、まずは二拠点目に嘉麻市を選んでもらえるような、そういった制度を考えて頂きたいと思い、このテーマを選びました。
上記の具体的な課題	上記における具体的な課題は、大きく3つ挙げられます。1つは、地域経済の減少とともに衰退している労働力不足・後継者不足です。雇用の確保ができず産業自体が縮小・廃業といったケースを課題として捉えています。2つ目の課題は、地域づくりの観点からみた自治機能の担い手の確保です。人々の暮らしが多様化するとともに、自治機能の在り方や価値観が多様化する一方で、過疎地域では、地域コミュニティが生活維持の拠り所にもなっており、自治の担い手となる人を確保していくことが課題と捉えています。3つ目の課題は、自治体経営の観点からみた税収確保策です。
目標（ゴール）	上記、課題からもわかるように、関係人口の創出施策は、ゴールではなく、スタートとして捉えています。テーマを選んだ理由にも説明しましたが、「来たこともない、住んだこともない、知り合いもいないといった場所」には、すぐに移住を決断してもらうには厳しい現状があるため、気軽に嘉麻市に来れる、住める、働ける制度を構築できたらと考えています。具体的には、お試しで住める・お試しで働ける・週末だけ住んでみる等、気軽に、楽しみながら、トライアルで嘉麻市を体験できる方法を考えて頂けたらと思います。目標とする最終ゴールとしては、関係人口を増やすことによって、後に移住・定住・起業・地域の担い手等に繋がることを期待しています。
自由記述	移住の「定住人口」でもなく、観光の「観光人口」でもない、地域と多様に関わる者を「関係人口」と呼ぶそうです。地域外から、嘉麻市に交流してくれる人をもっと増やす必要があると思います。そのための取り組みとして、もっと簡単に、もっと楽しく、何よりももっと気軽に、お試しで嘉麻市に住める制度や、お試しで嘉麻市でリモートワークできる環境整備等が、市の取り組みとしてできると、担い手不足解消にもつながり、地域活性化にもつながり、企業誘致にもつながり、結果的に嘉麻市の人口増大につながっていくのではないかと思います。

課題No.	5
所属課	企画財政課 企画調整係
テーマ	ふるさと納税額の伸び悩みについて
テーマを選んだ理由	嘉麻市は自主財源に乏しい財政体質であり、その状況は今後も厳しくなると見込まれます。しかしながら、今後数十年後を見据えて、多様な施策について今出来ることから積極的に取り組むことも大切であると考えています。今回、嘉麻市の自主財源の一部であり、市の PR 効果や地場産業の活性化等にも影響しているふるさと納税について、参加学生の皆様と一緒に考える機会を作りたいと思い、このテーマを選びました。
上記の具体的な課題	平成 29 年度より寄附額については右肩上がりではありますが、伸び率をもっと増加させていきたいと思っています。昨年 12 月に福岡県産品を嘉麻市の返礼品として登録することで、返礼品の拡充を図ったり、広告による PR、イベントへの参加等にも努めている状況ですが、まだまだ市内事業者の発掘や寄附者様がふるさと納税を行うきっかけ作り、市外の寄附者様への効果的な PR 手法など、数多くの課題があると考えています。
目標 (ゴール)	上記課題について、解決策等を考え、前年度の寄附金額に対し、50%増を目指します。 (例) 令和 2 年度 寄附金額 3 億円 令和 3 年度 寄附金額 4 億 5 千万円 (参考) ・平成 29 年度 119,403,026 円→平成 30 年度 146,713,000 円 (約 20%増) ・平成 30 年度 146,713,000 円→平成 31 年度 180,126,498 円 (約 20%増)
自由記述	嘉麻市は人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足といった課題に直面していますが、ふるさと納税制度を広く活用することで、関係人口を増やしていくことが大切であると考えています。嘉麻市の特産品や豊かな自然など、多くの魅力を市外の方々へ発信することを契機に、より多くの方々に嘉麻市を知ってもらえることを望んでおります。今回のインターンシップを通じて、参加学生の皆様と一緒に勉強させていただくことを楽しみにしております。